

消費者教育の総合的推進に関する調査研究
報告書

平成 19 年 3 月

はしがき

わが国の消費者政策は、平成 16 年に施行された消費者基本法によって大きな転換点を迎えたといえる。「消費者の権利の尊重」と「消費者の自立を支援する」が理念として掲げられた消費者基本法においては、正しい情報を受ける権利、選択する権利、そして教育を受ける権利が確保されることが述べられている。情報を受け、選択する権利を行使するには、消費者側が情報を活用するための基盤的な素養を備えることが必要条件であり、「教育を受ける権利」は今後更に重要性を増すと考えられる。

消費者教育については、平成 17 年 4 月 8 日に閣議決定された「消費者基本計画」において、「消費者教育を幅広く、かつ効率的・効果的に実施していくために、広く関係機関の協力を得て、消費者教育の体系化を図り、これに基づく消費者教育の推進方策について検討する。」と明記されている。

本調査は、同基本計画を受けて、平成 17 年度に実施された「消費者教育体系化のための調査研究」において検討された「消費者教育の体系シート」に示された目標をもとに、より具体的な推進方策を検討したものである。具体的には、領域別・ライフステージ別に設定された消費者教育の目標を達成するために、各ライフステージで学ぶべき内容を検討するとともに、将来的に想定される学習や支援が行われる場や機会について検討した。更に、これらの学習や支援が今後推進されるために必要と考えられる方策を検討するとともに提案としてまとめている。

今後、消費者教育推進の実現に向けた活動の際、本書を活用いただければ幸いである。最後に、本調査を実施するにあたり、委員各位並びに協力いただいた関係諸機関の方々に心より感謝申し上げる次第である。

平成 19 年 3 月

株式会社 三菱総合研究所

< 消費者教育の総合的推進に関する調査研究会 >

委員長	円谷 峻	明治大学大学院法務研究科（法科大学院）教授
委員	東 珠実	梶山女学園大学現代マネジメント学部 教授
	猪瀬 武則	弘前大学教育学部 教授
	尾島 恭子	金沢大学教育学部 助教授
	西村 隆男	横浜国立大学教育人間科学部 教授
	御船 美智子	お茶の水女子大学生生活科学部 教授
	安田 憲司	独立行政法人国民生活センター 教育研修部教務課

< 幼児期分科会 >

主 査	尾島 恭子	金沢大学教育学部 助教授
委 員	鳩山多加子	文京区立湯島幼稚園 園長
	二村 睦子	日本生活協同組合組織推進本部
	中野 治	（株）フレーベル館 編集局長

< 児童期分科会 >

主 査	猪瀬 武則	弘前大学教育学部 教授
委 員	小関 禮子	東村山市立野火止小学校長
	長田 三紀	東京都地域婦人団体連盟 事務局次長
	永田 英昭	（株）NTTドコモ コンテンツ&カスタマ部 セキュリティ推進担当部長

< 少年期分科会 >

主 査	西村 隆男	横浜国立大学教育人間科学部 教授
委 員	水上 慎士	早稲田大学ファイナンス研究センター 教授
	梶ヶ谷 穰	神奈川県立海老名高等学校 教諭
	蓮澤 敦子	全国消費者団体連絡会事務局

< 成人期分科会 >

主 査	東 珠実	梶山女学園大学現代マネジメント学部 教授
委 員	上田 裕司	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 社会教育調査官
	鈴木 仁史	鈴木総合法律事務所
	前野 春枝	千葉県消費者センター相談員
	渡邊 一郎	足立区中部福祉事務所 高齢援護係長

オブザーバー

金融庁(総務企画局政策課)

総務省(大臣官房企画課、総合通信基盤局消費者行政課)

法務省(大臣官房司法法制部司法法制課)

文部科学省(生涯学習政策局男女共同参画学習課、初等中等教育局教育課程課)

厚生労働省

農林水産省(消費・安全局消費・安全政策課)

経済産業省(商務情報政策局消費經濟部消費経済政策課)

環境省(総合環境政策局環境教育推進室)

独立行政法人国民生活センター

金融広報中央委員会事務局

内閣府(大臣官房企画調整課、国民生活局消費者企画課)

目 次

< 概要 >

< 本編 部 >

1. 調査研究の概要	xii
1.1 背景と目的	xii
1.2 平成 17 年度調査の経緯	xii
1.2.1 消費者教育の理念と体系化の基本方針	xii
1.2.2 消費者教育体系化の枠組み	xii
1.3 平成 18 年度調査の目的と概要	xii
1.4 調査研究の方法	xii
1.4.1 研究会及び分科会の設置	xii
1.4.2 シンポジウムの実施	xii
2. 消費者教育における現状と課題	xii
2.1 幼児期	xii
2.1.1 幼児期における消費者教育の現状	xii
2.1.2 幼児期における消費者教育の目標と学習内容	xii
2.1.3 幼児期における学習の機会等	xii
2.1.4 幼児期における消費者教育の推進方策	xii
2.2 児童期	xii
2.2.1 児童期における消費者教育の現状	xii
2.2.2 児童期の消費者教育の目標と学習内容	xii
2.2.3 児童期における学習の機会	xii
2.2.4 児童期における消費者教育の推進方策	xii
2.3 少年期	xii
2.3.1 少年期における消費者教育の現状	xii
2.3.2 少年期における消費者教育の目標と学習内容	xii
2.3.3 少年期における学習の機会	xii
2.3.4 少年期における消費者教育の推進方策	xii
2.4 成人期	xii
2.4.1 成人期における消費者教育の現状	xii
2.4.2 成人期における消費者教育の目標と学習内容	xii
2.4.3 成人期における学習の機会	xii
2.4.4 成人期における消費者教育の推進方策	xii
2.5 ライフステージ別の重点的な推進方策のまとめ	xii
3. 消費者教育の総合的推進の方向性	xii
3.1 消費者教育の推進のための方策	xii

3.2 消費者教育の総合的な推進にむけて	xii
----------------------------	-----

<本編 部>

4. 文献調査	xii
4.1.1 既存調査の分析	xii
4.1.2 シンポジウム等による意見収集状況	xii

【資料編】

資料1．体系シートに基づく学習内容シート

1.1 幼児期	1
1.2 児童期	12
1.3 少年期	24
1.4 成人期	37
1.5 高齢期	50

資料2．消費者教育プログラム

2.1 幼児期	
鳩山委員（安全）	63
鳩山委員（契約・取引）	65
二村委員（環境）	67
中野委員（情報）	69
2.2 児童期	
猪瀬委員（契約・取引）	71
小関委員（安全）	73
長田委員（環境）	75
永田委員（情報）	77
2.3 少年期	
蓮澤委員（全分野）	79
梶ヶ谷委員（契約・取引）	80
2.4 成人期	
鈴木委員（契約・取引）	82
東委員（契約・取引）	84

資料3．既存の消費者教育に関する実態調査等について

3.1 自治体調査	89
3.2 関係省庁調査	115

< 概要 >

1. 調査研究の概要

(1) 背景と目的

消費者が安全で安心できる消費生活を送ることができる環境を整備するため、消費者保護基本法が改正され、消費者基本法が制定された。同法を受けて策定された「消費者基本計画」において消費者教育の体系化を図り、これに基づく消費者教育の推進方策について検討することが明記されている。

同基本計画を受けて、内閣府において、平成 17 年度に消費者教育体系化のための研究会を立ち上げ「消費者教育の体系化」について検討し、ライフステージに応じた消費者教育の基本的な系統立てを行った。その結果、安全、契約・取引、情報、環境という領域別の目標を幼児・児童・少年・成人のライフステージごとに「～できる」という形で示した「教育体系シート」を策定した。

平成 18 年度調査では、平成 17 年度の調査を受けて、系統立てて整理された目標に対して、その目標を実現する学習内容について検討した。更に、消費者教育を推進するにあたって、担い手となる人材の育成及び教育が行われる場等について議論し、今後の推進方策を検討した。

(2) 調査研究の方法

消費者教育の推進方策を策定するために、「消費者教育の総合的推進に関する調査研究会」及びライフステージに応じた 4 つの分科会（幼児期、児童期、少年期、成人期）を設置して検討した。

分科会での検討内容は主に次のとおりである。

各ライフステージにおける消費者教育の現状と重点課題に関する検討

各ライフステージ・領域毎の消費者教育の目標を実現する学習内容の検討

各ライフステージにおける学習の機会と学習支援者の現状と将来像

各ライフステージにおける消費者教育の推進方策

2. 領域別・ライフステージ別の学習内容のまとめ

各分科会においては、ライフステージの特徴を踏まえながら、領域別・ライフステージ別に設定された消費者教育の目標を実現するために、各消費者に必要とされる学習内容について検討した。検討結果を領域別に表 1～4 に示す。

(1) 安全

図表 1 領域別・ライフステージ別の目標に対する学習内容（安全）

領域別の目標 ライフステージ	商品（食品を含む）の安全性等に関する情報を確認し、生命・健康への影響に配慮して、商品を選択・利用できる。		商品による事故・危害に適切な対処ができる。		安全に暮らせる社会を目指し、消費者の安全を確保するために協力して取り組むことができる。	
幼児期	目標 安全な物を選んで正しく使えるように、身近な人に聞くことができる。	学習内容 三輪車の正しい乗り方を教えてもらうなど、交通ルールについて興味・関心をもつ。 色やマークに意味があることに気づく。 遊具や用具は使い方によっては危険があることを理解する。	目標 身近な人に怪我や痛みを伝えることができる。	学習内容 怪我をした場合、自分もしくは友達がなぜ怪我をしたのかを説明する習慣を身につける。		
児童期	目標 商品を安全に扱うための基本的なきまりを守ることができる。また、身の回りの商品の安全に関するマークや品質表示に気づくことができる。	学習内容 製品には正しい使用方法があることや、正しい使い方しなければ危険である事を理解する。 食品の安全に興味・関心をもつ。 安全や品質を示すマーク（SGマークなど）、食品表示等の存在に興味をもつ。	目標 身の回りの商品の被害を身近な人に説明できる。	学習内容 生活においてトラブルに遭遇した場合、身近な人に相談する習慣を身につける。 安全性に問題がある商品を購入・摂取した場合に、対象商品や身体の状態などを説明する力を身につける。		
少年期	目標 日用の商品のマークや品質表示などの意味を理解して、集めた情報の中から、安全な商品を選び適切な取り扱いができる。	学習内容 製品の正しい使用方法やマーク等を無視した誤った使用は危険であることを理解する。 製品に付与された安全のマーク（SGマークなど）や警告マークの意味や特徴などについて理解する。 食品表示（JASマーク）や、アレルギー物質などに関する正しい知識を理解する。 食品の安全について興味・関心をもつ。 防災製品など、安全を守るための様々な製品の存在を知り、使い方を身につける。	目標 日用の商品による事故・危害に応じた相談機関を利用できる。	学習内容 安全に問題がある製品や食品等に接した場合、身近な人に相談する習慣を身につける。 製品の安全に関する相談機関やPLセンターなどの存在や役割を理解する。 安全に問題がある製品や食品等に接した場合、クレームを出すことができることに理解する。	目標 商品の安全性、消費者の安全を確保するための取り組みを知り、法律や制度に安心をもつことができる。	学習内容 製品の安全を確保するための取り組みや法制度（製造物責任法等）について興味をもつ。 法律や制度が遵守されない場合、被害が発生することを理解する。
成人期	目標 日常および社会生活の中で利用する商品の安全性に関する情報を集めることにより、安全な商品を選んで使うことができる。	学習内容 メーカーや業界団体等が提供している商品の安全性に関する情報の収集方法を知り、安全な商品の選び方や適切な使用方法を理解する。 生活の中で使用する製品について、使用前に取扱説明書等を読むことの必要性を理解する。 SGマーク、PSEマーク等、製品の安全性を示すマークや表示について理解する。 食品表示の見方、アレルギー物質など、食品に関する情報について理解する。	目標 商品の欠陥等で事故・危害があったときに、被害救済の制度・機関を活用できる。	学習内容 メーカー等が設置している商品事故等に対応する窓口の利用方法を理解する。 安全性に問題がある製品や食品等により被害を受けた場合に、消費生活センター等によるADR（裁判外紛争解決法）を利用する方法があることを理解する。 商品の欠陥等で事故・危害があったときに、必要に応じて弁護士等の法律の専門家に相談し、被害の救済を求める方法を理解する。	目標 安全な商品が提供されるように社会に働きかけよう。	学習内容 製品や食品の安全が脅かされることによる社会的影響の大きさと消費者行動の重要性について理解する。 自治体や消費者団体、地域のNPO等が実施している安全に関する取り組みについて学び、興味がある活動に参加しようとする意識を身につける。
成人期（高齢期）	目標 心身の状況に応じて、安全な商品を選んで使うことができる。	学習内容 メーカーや業界団体が提供している商品の安全性に関する情報の収集方法を知り、特に高齢者が留意すべき情報を理解する。 生活の中で使用する製品について、購入時に表示されているマークの意味や取扱上の留意点について説明を受ける習慣を身につける。 食品表示の見方、アレルギー物質など、食品に関する正しい知識を理解する。 商品の使用に際し、操作を覚えるまでに学習時間がかかること、忘れてしまう場合があること等に配慮した予備態勢を確保する習慣を身につける。	目標 商品による事故・危害を身近な人に相談できる。	学習内容 商品事故に遭った時には、メーカー等が設置している窓口相談すれば救済されることを理解する。 安全性に問題がある製品や食品により被害を受けた場合に、消費生活センター等の相談機関等を利用できることを理解する。 購入した商品に問題を感じたときに、適切な支援者から助言を得る習慣を身につける。	目標 心身の状況に配慮した安全な商品を提供する取り組みに協力できる。	学習内容 製品や食品の安全が脅かされることによる社会的影響の重大さについて学ぶとともに、自己に及ぼす影響について理解する。 自治体や消費者団体、地域のNPO等が実施している安全に関する取り組みについて学び、興味がある活動に参加する習慣を身につける。 介護保険制度・介護事業者の第三者評価について学び、制度の適切な利用について理解する。 介護サービスの認定等の際に、自分の意志を伝える力を身につける。

(2) 契約・取引

図表 2 領域別・ライフステージ別の目標に対する学習内容（契約・取引）

領域別の目標 ライフステージ	自己の必要性を満たすために、適切に判断し、合理的な選択ができる。		家計を適切に管理し、合理的な生活設計やお金の使い方ができる。		契約の意味・内容や契約上の権利と義務を理解し、契約を誠実に履行できる。		トラブルにあったときに適切な対処ができるとともに、安心して契約・取引ができる社会を目指し、協力して必要な取り組みができる。	
	目標	学習内容	目標	学習内容	目標	学習内容	目標	学習内容
幼児期	欲しい物を手に入れたい、やりたいことをするとき、よく考えることができる。	多くの物の中から、本当に欲しい物を選択する習慣を身につける。必要な物と、欲しい物を区別する意識をもつ。	先の事も考えてがまをすることができる。	「お買い物ごっこ」など身近な場面設定を通して、お小遣いの使い方や貯めなどの基本的な消費行動について興味・関心をもつ。 お金には限りがあり、商品・サービスの購入にはお金が必要であることに気がつく。	約束や決まり事を守る習慣が身につく。	遊びの中で、約束ごとやルールが大切なことを理解する。	身の回りの物に関する不安や心配ごとを身近な人に伝えることができる。	困ったことや分からないことがあった時に言葉で相手に伝える習慣を身につける。
児童期	身の回りの商品を買うときに、必要性や価格を比較することができる。	身の周りの商品を買う時に必要なものと、必ずしも必要ではないが欲しいものを分別する意識をもつ。 必要性や欲求の度合いに応じて商品を探し、価格や品質を考慮して選択する習慣を身につける（又は保護者に確認・相談する習慣を身につける）。	小遣いを家族と相談して計画的に使うことができる。	欲しいもの、必要なものの価格を把握し、購入のための計画を立てる習慣を身につける。 欲しいもの、必要なものが、なぜ欲しいのか、なぜ必要なのかを家族に説明する習慣を身につける。	約束や社会のきまりを守ることができる。	社会にルールがあることを理解し、生活に身近なマナーを守る習慣を身につける。 一ヶ月の小遣いの額など、家族との間の約束を守る習慣を身につける。	身の回りの商品の購入で不安になったとき、身近な人に説明し、解決方法を相談できる。	商品の購入の際には、購入方法、価格や効果を意識する。 商品の購入の際に購入方法、価格や効果について不明な点、不審な点があった場合には身近な人に相談する習慣を身につける。 購入した商品について不明な点、不審な点があった場合、身近な人に相談する習慣を身につける。
少年期	日用的商品を買うときに、必要性や価格・品質などを比較検討して選択できる。	身の周りの商品を買う時に必要なものと、必ずしも必要ではないが欲しいものを分別する習慣を身につける。 身の回りの商品について、必要性や付加価値などの費用対効果を検討する習慣を身につける。 必要性や欲求の度合いに応じて商品を探し、価格や品質の関係を考える習慣を身につける。	家計や将来の生活を考え、買物の購入計画を立てたり、貯金などを有効に活用できる。	お金について、計画的な使い道を考えて使用する習慣を身につける。 生活設計をしっかりと立て、預貯金やローンの適切に活用することの大切さを理解する。 生活上のリスクに備えた保険の活用や投資の意義について理解する。 株式など金融商品について、特徴やリスクとリターンについて理解する。	契約の意味と基本的なルールや仕組み（契約当事者としての権利と義務等）を理解し、適切な消費行動ができる。	契約の意味や基本的な法律（消費者契約法等）について理解する。 お金の役割や契約、カード・金利など、現代社会における金融経済の仕組みの基礎を理解する。	契約・取引のトラブルがあったときに、消費者のための法律・制度を活用したり、身近な人や相談機関に相談することができる。	契約・取引でトラブルがあったときや不安を感じた際、身近な人に相談する習慣を身につける。 契約・取引に関するトラブルの際、相談する機関が存在することを理解する。
成人期	自己の必要性や所得を考慮し、選択肢の費用対効果を検討して選択することができる。	必要と欲求の違いを理解する。 自己の必要性や所得を中長期的に把握するための計画の立て方を身につける。 商品の費用対効果を検討するために用いることのできる情報源や判断基準について理解する。 適切な情報源や判断基準に基づき、自ら立てた計画に見合った消費行動を取る習慣を身につける。	家計の支払い能力や将来の生活を考え、貯蓄や保険、クレジット（ローン）を適切に利用することができる。 また、リスクとリターンを考慮して金融商品を選ぶことができる。	家計収支の構造を知り、毎月の家計の実態を把握する方法を身につける。 毎月の家計や中長期的な生活設計に応じた貯蓄のあり方を考え、クレジット（ローン）の適切な利用方法を理解する。 年齢層に応じた危機管理のあり方を考え、保険の必要性と契約方法を理解する。 安全性、収益性、流動性を考慮して、計画的に金融商品を選択する習慣を身につける。	契約の意味と基本的なルールや法律・制度等（契約当事者としての権利と義務等）を理解し、契約の内容を十分確認した上で契約ができることと、契約したことを誠実に履行することができる。	契約の概念を知り、それに伴う権利と義務について理解する。 民法、消費者契約法、PL法、金融商品販売法等の契約に関する法律や、自治体が定める消費者保護に関する条例について理解する。 契約に伴う語彙やルール、トラブル事例について知り、契約を行う際に十分に内容を確認する習慣を身につける。 契約により発生する社会的責任の重要性を認識し、契約事項を正しく履行する習慣を身につける。	契約・取引のトラブルが生じたときに、消費者のための法律・制度を活用したり、相談機関に相談することができることと、安心して契約・取引できる社会を目指し協力して必要な取り組みができる。	契約・取引に伴うトラブルに巻き込まれた際、被害者救済のための法律や制度を利用して自己の安全や利益を守る方法を理解する。 契約・取引により不利益を被ったとき、消費生活センターなどの専門機関に相談する習慣を身につける。 悪質業者を排除するための地域の取り組みに、自主的に参加する習慣を身につける。
成人期 （高齢期）	自己の判断・選択で不安に備えて、身近な人の協力が得られるようにしておくことができる。	自らの心身の状況を把握した上で、家族に対してどのような協力を求めたいか話合う習慣を身につける。 自らの心身の状況を把握し、周囲の人に委譲したいところは委譲したいところを見極め、そのために必要となる手続きについて周りの人に相談をする習慣を身につける。 家族や身近な親族等がいない場合に、適切な制度を活用できることを理解する。 病院、福祉施設の入退院、入退所の際、身元保証人の必要性や役割について理解する。	自らの年金や資産の状況を把握して、家計運営に活かすことができる。	年金などの家計収入と生活費等の家計支出の現状を正しく理解する。 貯蓄と負債の残高を把握し、豊かで安定した生活のために資産を活用する方法を身につける。 金銭管理、財産管理に関連した不安やトラブルを身近な信頼できる専門家等に相談し、家計を安全に運営管理する習慣を身につける。 信託、財産管理サービスの委任、任意後見契約等に関する知識や公正証書による遺言状の作成方法・意義等を理解する。	契約する際に、契約の内容をよく確認した上で契約することができる。	契約によって発生する社会的責任を理解し、契約を誠実に履行することの重要性を理解する。 契約・取引の際に十分に内容を確認する習慣を身につける。 老朽化した家屋の補修等、高額な契約の際には特に注意深く内容を確認し、トラブルの予防や対応方法を理解する。 老い支度（終末期医療、葬儀、埋葬等）に関わる契約や費用等について理解する。	契約・取引で心配や不安があるときに、身近な人に相談したり、高齢者支援のための制度や組織を利用できる。	契約の際には周りの信頼できる人（アドバイザーや立会人）に相談できることを理解する。 契約・取引に関して不安を感じた場合に身近な人に相談する習慣を身につける。 契約・取引のトラブルに遭遇した場合の相談窓口の連絡先や相談方法を理解する。 高齢化に伴う物忘れや認知症に関連したトラブル事例を学ぶと共に、トラブル防止のための成年後見制度等の活用方法を理解する。 介護保険制度と介護サービスや施設との契約等の活用方法について理解する。

(3) 情報

図表 3 領域別・ライフステージ別の目標に対する学習内容（情報）

領域別の目標 ライフステージ	情報通信を消費生活の向上に役立てることができる。	個人情報適切に管理し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。	知的財産権に配慮して、他人の創作物などを利用できる。												
幼児期		<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知らない人には自分の家族の情報を話さないようにすることができる。</td> <td>知らない人に家族の情報は知らせない習慣を身につける。聞かれても言いたくないときは言わなくていいことを理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	知らない人には自分の家族の情報を話さないようにすることができる。	知らない人に家族の情報は知らせない習慣を身につける。聞かれても言いたくないときは言わなくていいことを理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分や友人の作品を大切にすることができる。</td> <td>自分の作品には名前を丁寧に書く習慣を身につける。 友人の作品を見てほめたり感想を言ったりする意識をもつ。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	自分や友人の作品を大切にすることができる。	自分の作品には名前を丁寧に書く習慣を身につける。 友人の作品を見てほめたり感想を言ったりする意識をもつ。				
目標	学習内容														
知らない人には自分の家族の情報を話さないようにすることができる。	知らない人に家族の情報は知らせない習慣を身につける。聞かれても言いたくないときは言わなくていいことを理解する。														
目標	学習内容														
自分や友人の作品を大切にすることができる。	自分の作品には名前を丁寧に書く習慣を身につける。 友人の作品を見てほめたり感想を言ったりする意識をもつ。														
児童期	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報の収集などの際に情報通信を適切に活用できる。</td> <td>情報通信機器（パソコン、携帯等）を活用した情報通信の存在に興味をもち、情報収集方法の基礎知識を理解する。 身近な人の助けを受けながら、情報通信機器を活用して、知らないことを調べられる技能を身につける。 インターネット上には様々な信憑性をもつ情報が混在していることを理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	情報の収集などの際に情報通信を適切に活用できる。	情報通信機器（パソコン、携帯等）を活用した情報通信の存在に興味をもち、情報収集方法の基礎知識を理解する。 身近な人の助けを受けながら、情報通信機器を活用して、知らないことを調べられる技能を身につける。 インターネット上には様々な信憑性をもつ情報が混在していることを理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報通信を活用する際に、自分や身近な人の情報を大切にすることなどの配慮ができる。</td> <td>インターネット上で他人を誹謗中傷しない等、利用上に必要な道徳理念を理解する。 個人情報の基礎知識や保管の仕方、情報発信・提供の基本的なルールについて意識をもつ。 インターネット上に自分や身近な人の個人情報を公開してはいけないことを理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	情報通信を活用する際に、自分や身近な人の情報を大切にすることなどの配慮ができる。	インターネット上で他人を誹謗中傷しない等、利用上に必要な道徳理念を理解する。 個人情報の基礎知識や保管の仕方、情報発信・提供の基本的なルールについて意識をもつ。 インターネット上に自分や身近な人の個人情報を公開してはいけないことを理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>独創性や人のアイデアを尊重することができる。</td> <td>著作物の利用や取り扱い上の注意点などについて意識をもつ。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	独創性や人のアイデアを尊重することができる。	著作物の利用や取り扱い上の注意点などについて意識をもつ。
目標	学習内容														
情報の収集などの際に情報通信を適切に活用できる。	情報通信機器（パソコン、携帯等）を活用した情報通信の存在に興味をもち、情報収集方法の基礎知識を理解する。 身近な人の助けを受けながら、情報通信機器を活用して、知らないことを調べられる技能を身につける。 インターネット上には様々な信憑性をもつ情報が混在していることを理解する。														
目標	学習内容														
情報通信を活用する際に、自分や身近な人の情報を大切にすることなどの配慮ができる。	インターネット上で他人を誹謗中傷しない等、利用上に必要な道徳理念を理解する。 個人情報の基礎知識や保管の仕方、情報発信・提供の基本的なルールについて意識をもつ。 インターネット上に自分や身近な人の個人情報を公開してはいけないことを理解する。														
目標	学習内容														
独創性や人のアイデアを尊重することができる。	著作物の利用や取り扱い上の注意点などについて意識をもつ。														
少年期	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報通信の利便性を理解し、情報の収集・発信などの際に情報通信を適切に活用できる。</td> <td>パソコンやインターネットを活用した情報通信の基礎を理解し、情報収集する力を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 情報通信等を通じて、個人や組織の情報発信や意思疎通を図ることができることを理解し、その技能を身につける。 インターネットを利用する際の最低限知っておくべきルールやマナーを身につける。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	情報通信の利便性を理解し、情報の収集・発信などの際に情報通信を適切に活用できる。	パソコンやインターネットを活用した情報通信の基礎を理解し、情報収集する力を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 情報通信等を通じて、個人や組織の情報発信や意思疎通を図ることができることを理解し、その技能を身につける。 インターネットを利用する際の最低限知っておくべきルールやマナーを身につける。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、個人情報の適切に管理し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。</td> <td>自分の個人情報を守る意識を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 インターネットを利用する際の自他の権利などの法律や制度等を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、個人情報の適切に管理し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。	自分の個人情報を守る意識を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 インターネットを利用する際の自他の権利などの法律や制度等を理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作品や商品には知的財産権があり、法律で保護されていることを理解し、知的財産権に配慮して他人の創作物などを利用できる。</td> <td>知的財産権について、基礎的な概念を理解する。 インターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権に関する注意点を理解する。 インターネット上のコピーの法的規制や、偽ブランド品の違法性など、生活の中の知的財産権について考える習慣を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	作品や商品には知的財産権があり、法律で保護されていることを理解し、知的財産権に配慮して他人の創作物などを利用できる。	知的財産権について、基礎的な概念を理解する。 インターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権に関する注意点を理解する。 インターネット上のコピーの法的規制や、偽ブランド品の違法性など、生活の中の知的財産権について考える習慣を身につける。
目標	学習内容														
情報通信の利便性を理解し、情報の収集・発信などの際に情報通信を適切に活用できる。	パソコンやインターネットを活用した情報通信の基礎を理解し、情報収集する力を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 情報通信等を通じて、個人や組織の情報発信や意思疎通を図ることができることを理解し、その技能を身につける。 インターネットを利用する際の最低限知っておくべきルールやマナーを身につける。														
目標	学習内容														
情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、個人情報の適切に管理し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。	自分の個人情報を守る意識を身につける。 情報通信の利便性とともに、危険性を理解する。 インターネットを利用する際の自他の権利などの法律や制度等を理解する。														
目標	学習内容														
作品や商品には知的財産権があり、法律で保護されていることを理解し、知的財産権に配慮して他人の創作物などを利用できる。	知的財産権について、基礎的な概念を理解する。 インターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権に関する注意点を理解する。 インターネット上のコピーの法的規制や、偽ブランド品の違法性など、生活の中の知的財産権について考える習慣を身につける。														
成人期	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報通信の利便性を広く日常生活のなかで理解し、情報の収集・発信、商品の購入、契約・取引などの際に情報通信を適切に活用できる。</td> <td>情報通信技術の発達もたらした高度情報社会の意義と問題点について理解する。 ホームページやブログ等を通じて、個人や組織の情報発信を適切に行う技能を身につける。 インターネットによる商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の留意点を知り、適切に利用する習慣を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	情報通信の利便性を広く日常生活のなかで理解し、情報の収集・発信、商品の購入、契約・取引などの際に情報通信を適切に活用できる。	情報通信技術の発達もたらした高度情報社会の意義と問題点について理解する。 ホームページやブログ等を通じて、個人や組織の情報発信を適切に行う技能を身につける。 インターネットによる商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の留意点を知り、適切に利用する習慣を身につける。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人情報の流出による被害や社会的責任を自覚し、個人情報を適切に管理するとともに、情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。また、安心して情報通信が利用できるように社会に働きかけていくことができる。</td> <td>個人情報保護法に定められた個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合に注意すべき事項について理解する。 組織における個人情報の取扱いに留意し、個人情報保護のために必要な組織内外のルールや手続きについて理解する。 個人情報に関する社会的な問題に関心をもち、個人情報保護のために主体的に行動することの重要性について理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	個人情報の流出による被害や社会的責任を自覚し、個人情報を適切に管理するとともに、情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。また、安心して情報通信が利用できるように社会に働きかけていくことができる。	個人情報保護法に定められた個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合に注意すべき事項について理解する。 組織における個人情報の取扱いに留意し、個人情報保護のために必要な組織内外のルールや手続きについて理解する。 個人情報に関する社会的な問題に関心をもち、個人情報保護のために主体的に行動することの重要性について理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知的財産権を守った商品を購入することにより、正規商品の提供者を支持し、不正商品を市場から排除する取り組みに協力できる。</td> <td>知的財産権の概念を理解し、知的財産権侵害等の問題について理解する。 組織内外における知的財産の存在と取扱いに関する留意点を理解する。 日常生活やインターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権を侵害する可能性があることを知り、知的財産権に配慮して活用する習慣を身につける。 知的財産権を侵害する商品の不買に努めることの重要性を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	知的財産権を守った商品を購入することにより、正規商品の提供者を支持し、不正商品を市場から排除する取り組みに協力できる。	知的財産権の概念を理解し、知的財産権侵害等の問題について理解する。 組織内外における知的財産の存在と取扱いに関する留意点を理解する。 日常生活やインターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権を侵害する可能性があることを知り、知的財産権に配慮して活用する習慣を身につける。 知的財産権を侵害する商品の不買に努めることの重要性を理解する。
目標	学習内容														
情報通信の利便性を広く日常生活のなかで理解し、情報の収集・発信、商品の購入、契約・取引などの際に情報通信を適切に活用できる。	情報通信技術の発達もたらした高度情報社会の意義と問題点について理解する。 ホームページやブログ等を通じて、個人や組織の情報発信を適切に行う技能を身につける。 インターネットによる商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の留意点を知り、適切に利用する習慣を身につける。														
目標	学習内容														
個人情報の流出による被害や社会的責任を自覚し、個人情報を適切に管理するとともに、情報の収集・発信の際に起こる問題や解決方法などを理解し、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。また、安心して情報通信が利用できるように社会に働きかけていくことができる。	個人情報保護法に定められた個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合に注意すべき事項について理解する。 組織における個人情報の取扱いに留意し、個人情報保護のために必要な組織内外のルールや手続きについて理解する。 個人情報に関する社会的な問題に関心をもち、個人情報保護のために主体的に行動することの重要性について理解する。														
目標	学習内容														
知的財産権を守った商品を購入することにより、正規商品の提供者を支持し、不正商品を市場から排除する取り組みに協力できる。	知的財産権の概念を理解し、知的財産権侵害等の問題について理解する。 組織内外における知的財産の存在と取扱いに関する留意点を理解する。 日常生活やインターネット等の情報通信を利用する際に知的財産権を侵害する可能性があることを知り、知的財産権に配慮して活用する習慣を身につける。 知的財産権を侵害する商品の不買に努めることの重要性を理解する。														
成人期 (高齢期)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心身の状況に応じて、情報通信を活用して商品の購入等ができる。</td> <td>心身の状況に応じて、パソコンを適切に操作できる技能を身につける。 インターネット商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の注意点を理解し、適切な活用方法を考え、実行する技能を身につける。 サービス利用や商品購入に関する消費者としての経験や知恵・疑問等を、インターネットを通じて発信し、適切な情報のやりとりを行う方法を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	心身の状況に応じて、情報通信を活用して商品の購入等ができる。	心身の状況に応じて、パソコンを適切に操作できる技能を身につける。 インターネット商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の注意点を理解し、適切な活用方法を考え、実行する技能を身につける。 サービス利用や商品購入に関する消費者としての経験や知恵・疑問等を、インターネットを通じて発信し、適切な情報のやりとりを行う方法を理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>心身の状況に応じて、個人情報を守り、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。</td> <td>個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合の注意点を理解する。 悪質な訪問販売や催眠術法等に巻き込まれることにより、個人情報が流出する危険があることを理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	心身の状況に応じて、個人情報を守り、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。	個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合の注意点を理解する。 悪質な訪問販売や催眠術法等に巻き込まれることにより、個人情報が流出する危険があることを理解する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>これまでの経験・知恵を知り、次世代に残すべき知恵として活用することができる。</td> <td>自身の知見の知的財産としての価値を見出し、次世代に残すべき知恵として、情報発信する習慣を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>	目標	学習内容	これまでの経験・知恵を知り、次世代に残すべき知恵として活用することができる。	自身の知見の知的財産としての価値を見出し、次世代に残すべき知恵として、情報発信する習慣を身につける。
目標	学習内容														
心身の状況に応じて、情報通信を活用して商品の購入等ができる。	心身の状況に応じて、パソコンを適切に操作できる技能を身につける。 インターネット商取引やインターネットバンキング等の利便性と利用上の注意点を理解し、適切な活用方法を考え、実行する技能を身につける。 サービス利用や商品購入に関する消費者としての経験や知恵・疑問等を、インターネットを通じて発信し、適切な情報のやりとりを行う方法を理解する。														
目標	学習内容														
心身の状況に応じて、個人情報を守り、自他の権利や利益に配慮して情報通信を適切に活用できる。	個人情報保護の理念を知り、日常生活において個人情報を守ろうとする姿勢を身につける。 インターネット上で個人情報を利用する場合の注意点を理解する。 悪質な訪問販売や催眠術法等に巻き込まれることにより、個人情報が流出する危険があることを理解する。														
目標	学習内容														
これまでの経験・知恵を知り、次世代に残すべき知恵として活用することができる。	自身の知見の知的財産としての価値を見出し、次世代に残すべき知恵として、情報発信する習慣を身につける。														

(4) 環境

図表 4 領域別・ライフステージ別の目標に対する学習内容（環境）

領域別の目標 ライフステージ	商品の購入段階において、商品の環境に関する情報を確認し、環境への影響に配慮した商品を選択できる。	商品の使用・廃棄段階において、物を大切にするとともに、消費生活が環境に及ぼす影響を認識し、適切な対処ができる。	持続可能な社会を目指し、消費生活に関わる環境保全の取り組みに協力して取り組むことができる。												
幼児期	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>身近な人に環境マークなど環境に関する情報を聞くことができる。</td> <td>環境マークの存在を知り、基本的な環境マークの特徴について興味・関心をもつ。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	身近な人に環境マークなど環境に関する情報を聞くことができる。	環境マークの存在を知り、基本的な環境マークの特徴について興味・関心をもつ。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>身近にあるものの使い方や捨て方について、身近な人から教わったり聞いたりすることができる。</td> <td>省エネやごみの分別など、日常生活での環境配慮の重要性について興味・関心をもつ。ものを大切にすることを身につける。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	身近にあるものの使い方や捨て方について、身近な人から教わったり聞いたりすることができる。	省エネやごみの分別など、日常生活での環境配慮の重要性について興味・関心をもつ。ものを大切にすることを身につける。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>保護者と一緒に環境保全に関わる地域の活動などに参加できる。</td> <td>地域の廃品回収などに保護者と一緒に参加し、環境保全活動に興味・関心をもつ。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	保護者と一緒に環境保全に関わる地域の活動などに参加できる。	地域の廃品回収などに保護者と一緒に参加し、環境保全活動に興味・関心をもつ。
目標	学習内容														
身近な人に環境マークなど環境に関する情報を聞くことができる。	環境マークの存在を知り、基本的な環境マークの特徴について興味・関心をもつ。														
目標	学習内容														
身近にあるものの使い方や捨て方について、身近な人から教わったり聞いたりすることができる。	省エネやごみの分別など、日常生活での環境配慮の重要性について興味・関心をもつ。ものを大切にすることを身につける。														
目標	学習内容														
保護者と一緒に環境保全に関わる地域の活動などに参加できる。	地域の廃品回収などに保護者と一緒に参加し、環境保全活動に興味・関心をもつ。														
児童期	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>身の回りの商品に、環境に関するマークなどの情報があることに気づくことができる。</td> <td>環境配慮製品の存在に気づき、表示マークの特徴などについて理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	身の回りの商品に、環境に関するマークなどの情報があることに気づくことができる。	環境配慮製品の存在に気づき、表示マークの特徴などについて理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>自分の消費生活が環境に影響を及ぼすことに気づき、身の回りの商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。</td> <td>消費生活と環境との関係性を理解し、商品の適切な使用、廃棄する習慣を身につける。省エネに配慮した商品の使用、ごみの分別、水の使い方など、日常生活において環境に配慮する習慣を身につける。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	自分の消費生活が環境に影響を及ぼすことに気づき、身の回りの商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を理解し、商品の適切な使用、廃棄する習慣を身につける。省エネに配慮した商品の使用、ごみの分別、水の使い方など、日常生活において環境に配慮する習慣を身につける。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>身の回りで取り組まれている環境保全活動の方法を話し合ったり、参加したりすることができる。</td> <td>地域で行われている様々な環境保全活動内容に興味をもつ。身の回りで取り組まれている環境保全活動のうち、興味ある分野に参加する習慣を身につける。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	身の回りで取り組まれている環境保全活動の方法を話し合ったり、参加したりすることができる。	地域で行われている様々な環境保全活動内容に興味をもつ。身の回りで取り組まれている環境保全活動のうち、興味ある分野に参加する習慣を身につける。
目標	学習内容														
身の回りの商品に、環境に関するマークなどの情報があることに気づくことができる。	環境配慮製品の存在に気づき、表示マークの特徴などについて理解する。														
目標	学習内容														
自分の消費生活が環境に影響を及ぼすことに気づき、身の回りの商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を理解し、商品の適切な使用、廃棄する習慣を身につける。省エネに配慮した商品の使用、ごみの分別、水の使い方など、日常生活において環境に配慮する習慣を身につける。														
目標	学習内容														
身の回りで取り組まれている環境保全活動の方法を話し合ったり、参加したりすることができる。	地域で行われている様々な環境保全活動内容に興味をもつ。身の回りで取り組まれている環境保全活動のうち、興味ある分野に参加する習慣を身につける。														
少年期	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>日用の商品のマークや品質表示などの意味を理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。</td> <td>環境商品の分類や表示マークの特徴や意味を知り、その商品が環境に対してどのような効果や影響を及ぼしているのかを理解する。日用品を提供する企業の環境への取り組みについて知り、環境に配慮した製品について理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	日用の商品のマークや品質表示などの意味を理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。	環境商品の分類や表示マークの特徴や意味を知り、その商品が環境に対してどのような効果や影響を及ぼしているのかを理解する。日用品を提供する企業の環境への取り組みについて知り、環境に配慮した製品について理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>消費生活が環境に及ぼす影響を理解し、日用の商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。</td> <td>消費生活と環境との関係性や商品の適切な使用・廃棄方法を身に付けるとともに、それが環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。省エネに配慮した商品の使用やゴミの分別など日常生活での環境に配慮した習慣を身につける。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を理解する。ライフサイクルアセスメントの考え方を理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	消費生活が環境に及ぼす影響を理解し、日用の商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性や商品の適切な使用・廃棄方法を身に付けるとともに、それが環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。省エネに配慮した商品の使用やゴミの分別など日常生活での環境に配慮した習慣を身につける。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を理解する。ライフサイクルアセスメントの考え方を理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>国内や国際的・地球規模の環境問題と消費生活との関連に関心をもち、それらに関わる環境保全活動に参加・協力できる。</td> <td>企業の社会的責任や環境問題に対する活動に関する情報を収集あるいは体験し、取組内容の必要性を理解する。地域の環境問題に関する社会的な取組みの必要性を理解する。また、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境問題に関する講座や環境に関するボランティア活動などにおいて、環境問題に対する社会的な取組みの必要性を理解し、次世代へのつながりの重要性を理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	国内や国際的・地球規模の環境問題と消費生活との関連に関心をもち、それらに関わる環境保全活動に参加・協力できる。	企業の社会的責任や環境問題に対する活動に関する情報を収集あるいは体験し、取組内容の必要性を理解する。地域の環境問題に関する社会的な取組みの必要性を理解する。また、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境問題に関する講座や環境に関するボランティア活動などにおいて、環境問題に対する社会的な取組みの必要性を理解し、次世代へのつながりの重要性を理解する。
目標	学習内容														
日用の商品のマークや品質表示などの意味を理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。	環境商品の分類や表示マークの特徴や意味を知り、その商品が環境に対してどのような効果や影響を及ぼしているのかを理解する。日用品を提供する企業の環境への取り組みについて知り、環境に配慮した製品について理解する。														
目標	学習内容														
消費生活が環境に及ぼす影響を理解し、日用の商品の使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性や商品の適切な使用・廃棄方法を身に付けるとともに、それが環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。省エネに配慮した商品の使用やゴミの分別など日常生活での環境に配慮した習慣を身につける。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を理解する。ライフサイクルアセスメントの考え方を理解する。														
目標	学習内容														
国内や国際的・地球規模の環境問題と消費生活との関連に関心をもち、それらに関わる環境保全活動に参加・協力できる。	企業の社会的責任や環境問題に対する活動に関する情報を収集あるいは体験し、取組内容の必要性を理解する。地域の環境問題に関する社会的な取組みの必要性を理解する。また、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境問題に関する講座や環境に関するボランティア活動などにおいて、環境問題に対する社会的な取組みの必要性を理解し、次世代へのつながりの重要性を理解する。														
成人期	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>日常および社会生活の中で利用する商品のマークや品質表示などを理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。</td> <td>エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。組織における資料調達の際に、環境に配慮した商品を選択することが、組織の社会的責任として重要であることを理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	日常および社会生活の中で利用する商品のマークや品質表示などを理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。	エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。組織における資料調達の際に、環境に配慮した商品を選択することが、組織の社会的責任として重要であることを理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>日常及び社会生活の中で利用する物について、使用・廃棄について適切な対処ができる。</td> <td>消費生活と環境との関係性を知り、商品の使用や廃棄が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を知り、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。製品を長く大切に使用する習慣を身につける。省エネ料理や生ゴミの肥料化など、食生活を通して環境保護に貢献できることを理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	日常及び社会生活の中で利用する物について、使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を知り、商品の使用や廃棄が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を知り、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。製品を長く大切に使用する習慣を身につける。省エネ料理や生ゴミの肥料化など、食生活を通して環境保護に貢献できることを理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>次世代へのつながりを考慮し、環境問題に対する社会的な取組みとしての活動に参加・協力できる。</td> <td>次世代の環境を守るために、消費者団体、事業者、NPO、自治体等が行っている活動について理解する。地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、自らの判断のもと興味ある分野の活動に参加しようとする意識をもつ。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	次世代へのつながりを考慮し、環境問題に対する社会的な取組みとしての活動に参加・協力できる。	次世代の環境を守るために、消費者団体、事業者、NPO、自治体等が行っている活動について理解する。地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、自らの判断のもと興味ある分野の活動に参加しようとする意識をもつ。
目標	学習内容														
日常および社会生活の中で利用する商品のマークや品質表示などを理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。	エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。組織における資料調達の際に、環境に配慮した商品を選択することが、組織の社会的責任として重要であることを理解する。														
目標	学習内容														
日常及び社会生活の中で利用する物について、使用・廃棄について適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を知り、商品の使用や廃棄が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するために必要な3R(リデュース、リユース、リサイクル)の原則を知り、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。製品を長く大切に使用する習慣を身につける。省エネ料理や生ゴミの肥料化など、食生活を通して環境保護に貢献できることを理解する。														
目標	学習内容														
次世代へのつながりを考慮し、環境問題に対する社会的な取組みとしての活動に参加・協力できる。	次世代の環境を守るために、消費者団体、事業者、NPO、自治体等が行っている活動について理解する。地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、自らの判断のもと興味ある分野の活動に参加しようとする意識をもつ。														
成人期 (高齢期)	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>環境に関する新たなマークや表示等に関心をもち、商品の選択に利用することができる。</td> <td>エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	環境に関する新たなマークや表示等に関心をもち、商品の選択に利用することができる。	エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>商品の使用・廃棄段階に関わり環境への影響に配慮して新しく制定された社会的なルールなどを理解し、適切な対処ができる。</td> <td>消費生活と環境との関係性を知り、商品の適切な使用・廃棄方法が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するための新しい制度等に興味を持ち、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。家財処理等にかかる環境被害の可能性を学び、資産の処分の際にも廃棄やリサイクル等に配慮する必要があることを理解する。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	商品の使用・廃棄段階に関わり環境への影響に配慮して新しく制定された社会的なルールなどを理解し、適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を知り、商品の適切な使用・廃棄方法が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するための新しい制度等に興味を持ち、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。家財処理等にかかる環境被害の可能性を学び、資産の処分の際にも廃棄やリサイクル等に配慮する必要があることを理解する。	<table border="1"> <tr> <th>目標</th> <th>学習内容</th> </tr> <tr> <td>環境保全に関する生活上の知恵や工夫を次世代に伝えることができる。</td> <td>地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境保全活動に関する社会活動の経験やエピソードの体験等を子どもたちや若い世代に伝える習慣を身につける。</td> </tr> </table>	目標	学習内容	環境保全に関する生活上の知恵や工夫を次世代に伝えることができる。	地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境保全活動に関する社会活動の経験やエピソードの体験等を子どもたちや若い世代に伝える習慣を身につける。
目標	学習内容														
環境に関する新たなマークや表示等に関心をもち、商品の選択に利用することができる。	エコマークやグリーンマーク等、環境に配慮した商品に付けられているマークや表示の意味を理解し、その社会的な意義を理解する。購買行動の際に、環境に配慮した商品を積極的に購入することが重要であることを理解する。														
目標	学習内容														
商品の使用・廃棄段階に関わり環境への影響に配慮して新しく制定された社会的なルールなどを理解し、適切な対処ができる。	消費生活と環境との関係性を知り、商品の適切な使用・廃棄方法が環境に対してどのような影響を及ぼすのかを理解する。循環型社会を形成するための新しい制度等に興味を持ち、廃棄物を適切に分別する習慣を身につける。家財処理等にかかる環境被害の可能性を学び、資産の処分の際にも廃棄やリサイクル等に配慮する必要があることを理解する。														
目標	学習内容														
環境保全に関する生活上の知恵や工夫を次世代に伝えることができる。	地域の環境問題に関する様々な活動の意義を理解し、興味ある分野の活動に参加する習慣を身につける。環境保全活動に関する社会活動の経験やエピソードの体験等を子どもたちや若い世代に伝える習慣を身につける。														

3. 消費者教育における現状と課題及び重点施策について

ライフステージ別に検討された消費者教育の現状と課題及び重点施策について検討した結果を以下にまとめる。

< 幼児期の現状と課題 >

- ・ 幼児期における基礎的・基本的な知識・態度育成の必要性に対する学習支援者側の認識の不足
- ・ 汎用性のある適切な教材・プログラムの不足
- ・ 幼児が保護者と学ぶ重要性の高まり

< 児童期の現状と課題 >

- ・ 学校教育における消費者教育に対する意識の向上の必要性と創意工夫の不足
- ・ 豊富な既存教材等の活用不足

< 少年期の現状と課題 >

- ・ 消費行動の拡大による消費者教育の重要性や範囲の広がりに対する対応不足
- ・ 危険性等に「気づく力」の育成等基礎的な消費者教育の不足と、社会人の「経験知」から学ぶ機会の不足
- ・ 中高生が体系的に学ぶための学校における消費者教育の機会の活用不足

< 成人期の現状と課題 >

- ・ 共通する消費者教育の場が存在しないことに起因する、消費者教育の機会の偏り
- ・ 高齢者等に対する消費者教育、子どもや高齢者等を支援する成人に対する消費者教育の要請の高まり
- ・ 年齢、職業、社会的立場等に応じた多様な消費者教育の機会の不足

図表 5 各ライフステージの現状と課題

	幼児期	児童期	少年期	成人期
教材・プログラム	教材・プログラムが不足している	教材・プログラムは一定量存在するが十分活用されていない	教材・プログラムは一定量存在するが十分活用されていない	教材・プログラムは多数作成されているが、多様な活用場面を想定すると不十分な面もある
学習支援者	保護者・地域内人材等が支援者となることが想定される	保護者、教員、地域内人材、企業・団体の専門家等が想定されるが十分活用されていない	教員、地域内人材、企業・団体の専門家等が想定されるが十分活用されていない	団体の専門家等(消費者相談員、弁護士等)、他消費者同士が相互に支援しあうことが想定されるが十分な連携できていない
学習の機会	遊びの中で、消費者教育と意識されずに部分的に実施されている	学校の間を中心として、部分的に実施されている	家庭や地域における様々な場(イベント時、遊びの際等)に学習機会があるが、十分活用されていない	職場や社会教育施設、地域の場など、様々な場面に広がる可能性はあるが、実践されていない

⋯各ライフステージで重点課題とされた点

また、各ライフステージの将来的な可能性について議論されるとともに、推進方策が検討された。次にライフステージ毎の推進方策をまとめる。

(1) 幼児期

< 将来的に想定される学習の機会や学習支援者 >

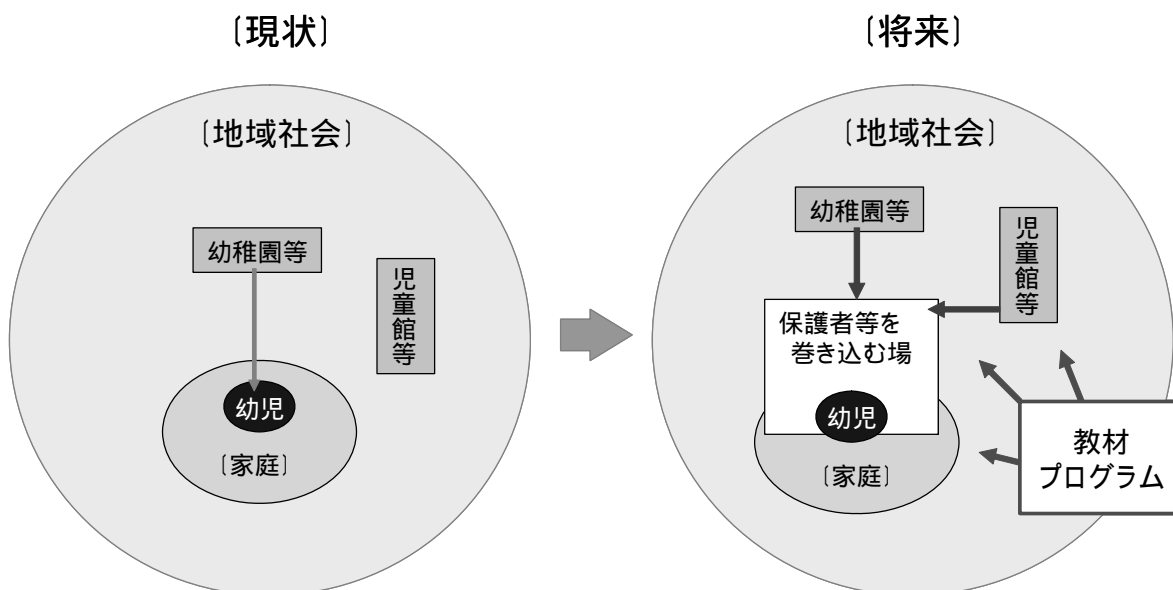
- ・ 幼稚園や保育所で実施されている催しには、消費者教育の要素を含むものがいくつかあり、将来的には、より消費者教育を明確に意識した取り組みが行われる可能性がある。また、地域・児童館等においては、今後、新たな学習の機会も展開できる可能性がある。
- ・ 保護者や地域内人材といった学習支援者の参加をより積極的に促すことで、新たな学習を展開できる可能性がある。また、学習支援者である保護者や保育者が子どもと一緒に学ぶことで、身近な大人によるきめ細やかな対応が望まれるとともに、子どもが日々の生活の中で学習内容を身近に感じられる可能性がある。

< 幼児期の重点課題と推進方策 >

汎用性のある適切な教材や、それを利用するプログラムを充実する必要がある。

- ・ 領域横断的で汎用的な教材の作成・共有化
- ・ 効果的な学習の機会を対象としたプログラムの構築
- ・ 身近な学習支援者である保護者・地域内人材を巻き込む仕組みづくり
- ・ 幼稚園教諭・保育所の保育士を中心とした学習支援者への支援の充実

図表 6 幼児期における消費者教育推進のイメージ



(2) 児童期

< 将来的に想定される学習の機会や学習支援者 >

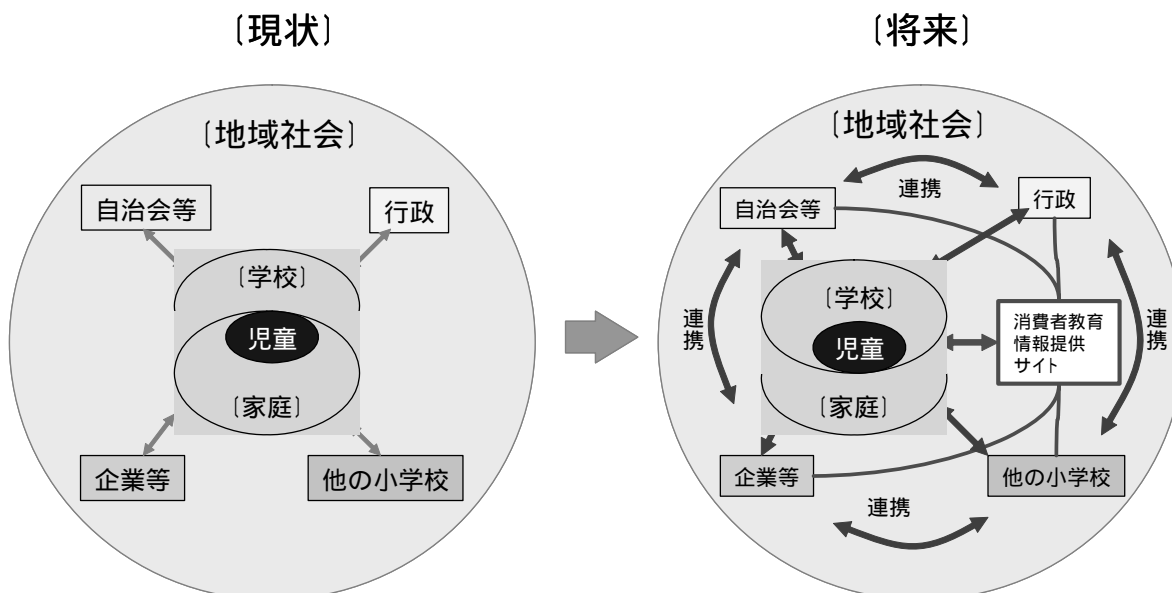
- ・ 授業等の時間において、適切な教材やプログラムを提供し、消費者教育の充実に図ることが可能である。
- ・ 課外授業や学外での活動等で学ぶような場や、地域において土曜講座等を開き親子で学ぶような場を設定する手法も効果的である。
- ・ 研修等による教員の消費者教育に対する意識及び知識の向上が大きな効果を生み出す可能性がある。
- ・ 学習支援者として、企業や消費者団体等の人材のほか、専門家（消費生活相談員、弁護士、司法書士等）の多様な人材の活用による教育が有効である。

< 児童期の重点課題と推進方策 >

小学校を活動の場の中心としつつ、地域社会、行政、行政、企業、消費者団体等が連携して学習を支援するため、情報提供を効果的に行う場を構築することが必要である。

- ・ 双方向型情報提供の Web サイトの構築
- ・ 教員が児童期の消費者教育の重要性を再認識するための情報提供の場の充実
- ・ 小学校の需要に対応した、柔軟な教材やプログラムに関する情報提供の場の充実
 - ・ 多様な人材を活用する仕組みの充実

図表 7 児童期における消費者教育推進のイメージ



(3) 少年期

< 将来的に想定される学習の機会や学習支援者 >

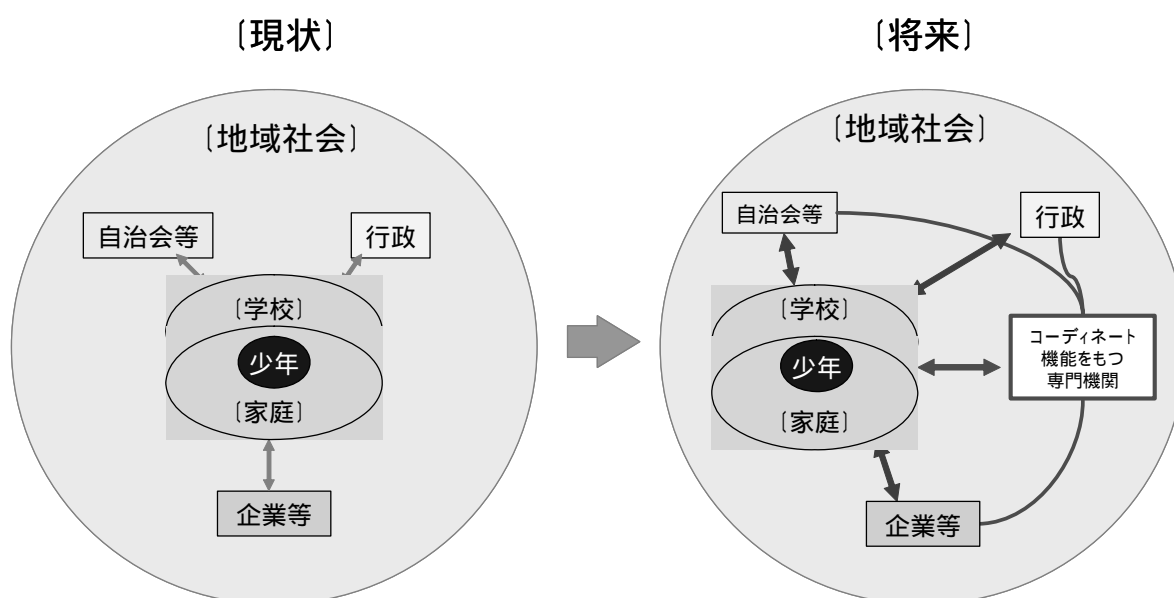
- ・ 学校教育において、企業職員や専門家（消費者相談員、消費者団体職員、弁護士等）等、多様な学習支援者との協力体制を整備し、その知見を活用する工夫が有効である可能性がある。
- ・ 地域や学校におけるイベント時や様々な活動時、より実践的な場面において学ぶ可能性がある。
- ・ ゲーム・漫画・携帯電話等の活用も視野に入れた教育効果の上がる消費者教育の個別的学習機会の開発が有効である可能性がある。

< 少年期の重点課題と推進方策 >

少年（中高生）と社会が連携する仕組みを充実すること（コーディネート機能の充実）が必要である

- ・ 地域・企業や消費者団体等の専門家等と学校の連携による学習支援者の多様化促進
- ・ 様々な分野の知見の集約とプログラムや教材の集積を兼ね備えたコーディネート機能の充実
- ・ 知識を行動につなげるための効果的な学習機会（家庭や地域において消費者意識・消費者行動を考える「場」や「時間」）の構築

図表 8 少年期における推進方策のイメージ



(4) 成人期

< 将来的に想定される学習の機会や学習支援者等 >

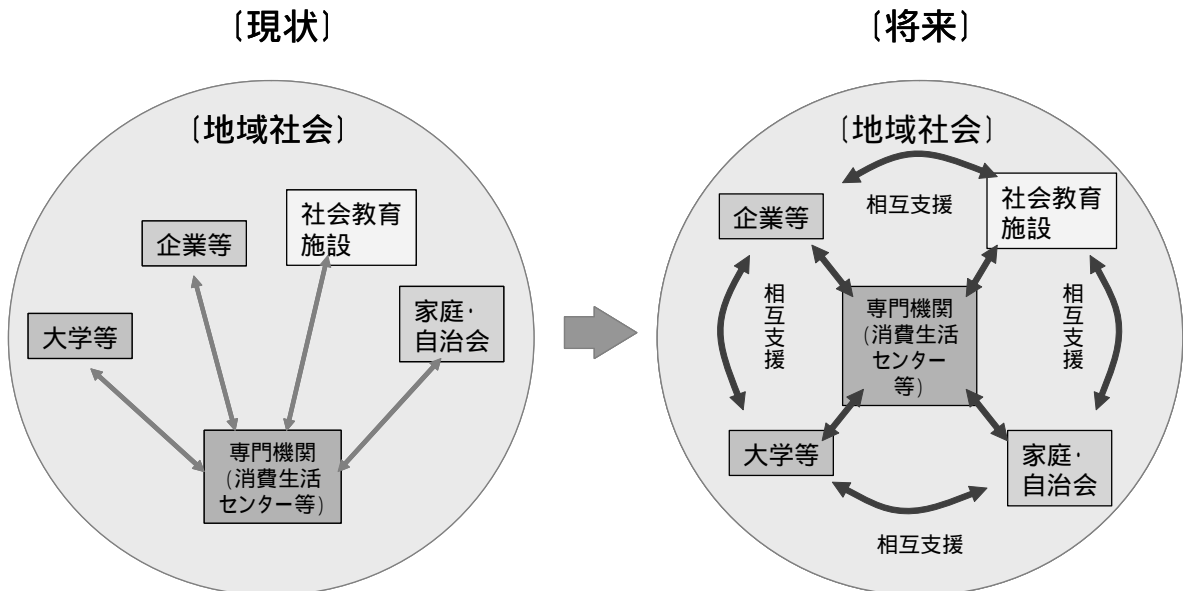
- ・ 年齢、職業、社会的立場等に応じた、多様な消費者教育の機会が必要である。
- ・ 高齢者等に対しては、社会福祉の場面や施設等において、新たな消費者教育の機会を見いだすことができる。
- ・ 自立が可能な成人は、支援を受ける立場に立った成人に必要な消費者啓発情報等を届けたり、啓発を行う支援者となる可能性がある。

< 成人期の重点課題と推進方策 >

さまざまな立場の成人が必要な情報を取得・共有・活用し、相互に支援しあう体制が必要である。

- ・ 成人の多様性や加齢等に伴う主体の変化に応じた消費者教育の展開
- ・ 消費者と関連機関を結ぶ相互支援とコーディネート仕組みの充実
- ・ 職場における消費者教育の強化

図表 9 成人期（高齢期を含む）における消費者教育推進方策のイメージ



4. 消費者教育の総合的推進の方向性

ライフステージ毎に消費者教育の現状とともに、求められる学習の内容・機会・方法・人材育成等の課題を明らかにしてきた。その結果、消費者教育の総合的推進の方向性として、以下の3つの推進策が指摘された。更に、この3つを総合的に推進するための方策が提案された。

図表 10 消費者教育の総合的推進の方向性（まとめ）

